

(1) 双葉郡教育復興ビジョンにかかる協議・検討等

1. 双葉郡教育復興ビジョン推進協議会◇ 第27回

会議日：2024年6月21日（金）13:30～15:30

（11:00～12:10 檜葉町立檜葉小学校訪問）



場所：檜葉町コミュニティセンター

議事内容：

- 今年度の各取組実施状況について
- 各町村教育委員会の現状と課題
- 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校活動報告
- 双葉郡教育復興ビジョン推進計画書第四期について

◇ 第28回※浪江町立なみえ創成小学校・中学校訪問を含む

会議日：2025年2月12日（水）13:30～15:30

（11:00～12:10 浪江町立なみえ創成小学校・中学校訪問）

場所：浪江町防災交流センター

議事内容：

- 今年度の各取組実施状況について
- 各町村教育委員会の現状と課題
- 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校活動報告
- 令和7年度推進体制・行事計画（案）について
- 双葉郡教育復興ビジョン推進計画書（第四期）最終案について

2. 双葉郡地域学校協働本部 会議

目的：多様な主体との連携を図り、教育の充実、教育と地域復興の相乗効果を生み出す

構成：8町村地域コーディネーター、8町村小中およびふたば未来学園高校、8町村教育委員会を代表する者等

会議日：2024年10月1日（火）10:00～11:30

場所：大熊町立学び舎ゆめの森 サブアリーナ

議事内容：

- 各町村、関係団体等の活動状況紹介

- 学び舎ゆめの森校舎視察

関連事項：

- ① 各町村および本部コーディネーター等による外部講師のコーディネート、外部施設訪問等を実施（通年（随時））

実践例：

基幹相談支援センターによる障害への理解を深める講座 （広野中）	双葉町標葉せんだん太鼓保存会によるせんだん太鼓の演奏練習 （双葉南・北小、双葉中）	福島大学講師による災害時の避難の仕方や避難所運営の体験的な学習 （富岡小）
		

- ② 「双葉郡地域学校協働本部事業リーフレット」の発行

目的：双葉郡地域学校協働本部の事業案内および事業報告を郡内各校で共有し、更なる連携した取組の充実に繋げる

内容：双葉郡地域学校協働本部概要紹介、各町村の取組、各校の実践事例等

発行部数：800部（予定）

配布対象：郡内教職員、関係者等

発行日：2025年3月（予定）

3. 双葉地区中高連携協議会（年1回実施）

目的：双葉郡としての一体感を高め、生徒の主体性・協働性・創造性を育成する

構成：県教育庁代表職員、ふたば未来学園中学校・高等学校長および8町村立中学校長、8町村教育長等（協議会長：武内雅之 富岡中学校長）

会議日：2024年12月25日（水）14:00～16:00

場所：富岡町文化交流センター学びの森 2階 第1会議室

議事内容：

- ふるさと創造学サミット・中高生交流会・ふたば生徒会連合活動等の振り返り
- 次年度へ向けて

4. 委員会連絡協議会（年2回実施）

目的：各委員会・取組間の情報共有、連携

構成：各委員会委員長および中高連携協議会長

会議日・場所・議事内容：

- 第1回 2024年5月1日(水) 11:00~12:00(オンライン開催)
 - 今年度計画・推進体制の確認
 - 各取組の情報共有(昨年度の成果・課題、今年度の概要等)
- 第2回 2025年2月25日(火) 11:00~12:00(オンライン開催予定)
 - 各取組の成果・課題等共有
 - 次年度に向けた意見交換
 - 今年度計画・推進体制の確認

(2) 第11回双葉郡ふるさと創造学サミット

□ 趣旨

ふるさと創造学の取組を共有し、学びを通じた交流で、地域のつながりをつくる
(スローガン)

～伝えあい、つながって、広がる ふるさとふたばの学び～

町村や校種を越えて学びあい、多様な見方・考え方にふれることで視野を広げる

□ 体制：(サミット実行委員会)

実行委員長：星 輝伸 葛尾小学校長

委員：各町村(小中学校)・高校・特別支援学校・相双教育事務所より1名以上
(計21名)

会議日：6月14日、8月30日、11月18日、1月22日(計4回)

□ 実施概要

日時：2024年11月30日(土) 9:30~14:10

場所：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

※一部セッションを後日 YouTube 配信予定

内容：郡内各小中学校・義務教育学校、ふたば未来学園中学校・高等学校、ふたば支援学校の児童生徒による、各校の「ふるさと創造学」の取組を共有し合う学びあいセッション

プログラム：

① オープニング・セレモニー(30分) ※ふたば生徒会連合による企画運営

司会：なみえ創成中学校

1. 開会の言葉(葛尾中学校)

2. 来賓挨拶

○ 復興庁 興水恵一 復興副大臣

○ 文部科学省 武部新 文部科学副大臣

3. ふたば生徒会連合によるお楽しみ企画

○ じゃんけん列車

○ 円陣(時間の関係で実施なし)



4. 閉会の言葉（川内小中学園）

② 学びあいセッション（11会場、計34セッション）

- 今年度の各校の取組について、下記2つのパートを含めながら自由な形式で発表する。
 - ①「メッセージをしっかりと伝える、じっくり聴く」パート：プレゼン型、対話型など、伝えるスタイルは自由。互いに考え、つながり、学びを広げるパートにつなげる成果発表や問題提起を含む。
 - ②「互いに考え、つながり、学びを広げる」パート：疑問や感想、広がった考えを自由に伝えあう。その後につながる新たな気づきや課題を大切に、自分の考えと向き合ったり、より深く知ろうとしたりする。
- メッセージを伝える側と受け取る側どちらの立場にあっても主体的に参加し、「学びあい」を充実させる。
- 1セッション30分とし、発表15分・対話15分の時間配分を基本とするが、内容や人数等に応じて各校での判断も可とする。
- 「学びを広げる」パートは、小グループでの対話を基本とする。テーマ、スタイル、進め方等を含め、対話の内容は各校にて検討・実施するものとする。





③ クロージング・セレモニー（20分）※ふたば生徒会連合による企画運営
司会：広野中学校

1. 開会の言葉（富岡中学校）
2. 感想共有
3. 閉会宣言（双葉中学校）
4. 写真撮影



□ 参加者数（計 725 名）

児童生徒 493 名、教職員 152 名、来賓・関係者等 80 名

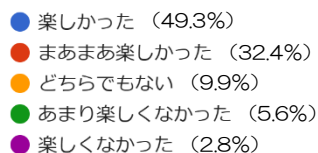
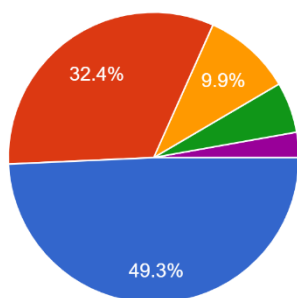


□ 活動の振り返り

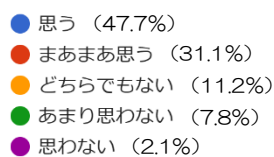
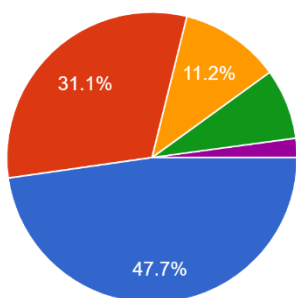
振り返りアンケートより：

【児童生徒】

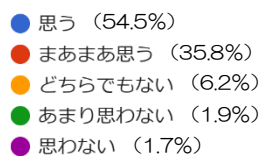
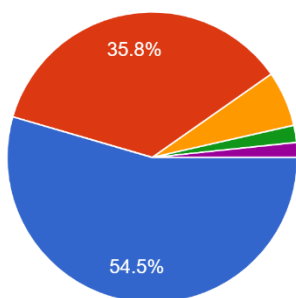
◇ 今年のふるさと創造学サミットはどうでしたか。



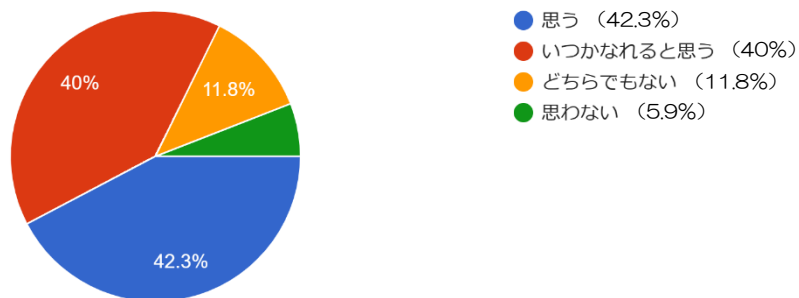
◇ ふるさと創造学サミットに参加することで、他の町村の児童生徒と交流できたと思いますか。



◇ ふるさと創造学の学習を通して、地域やふるさとについてより多くのことを知ることができていると思いますか。



◇ 自分がふるさとや今住んでいる地域を元気にする力になっていると思いますか。



◇ ふたば生徒会連合のオープニング・クロージングはいかがでしたか。

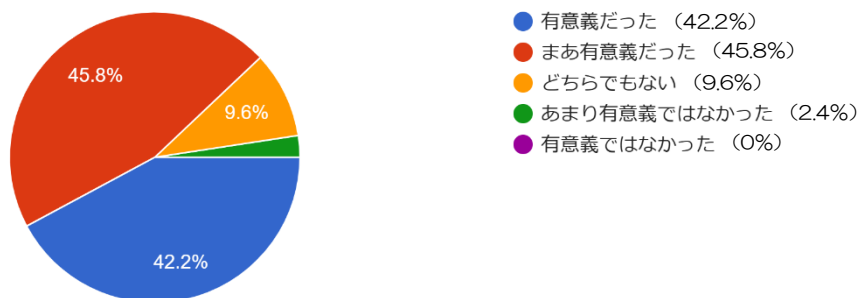
- ✓ 誰でも感想を言いやすい雰囲気でもとても安心できる場でした。
- ✓ じゃんけん列車は、他の学校の人たちと交流ができたしとても楽しかったです。ぜひ来年もやってほしいと思いました。
- ✓ スタートで笑顔が増えたから良かったと思います。

◇ 発表した場合は、自分たちが発表してみて感じたことを教えてください。

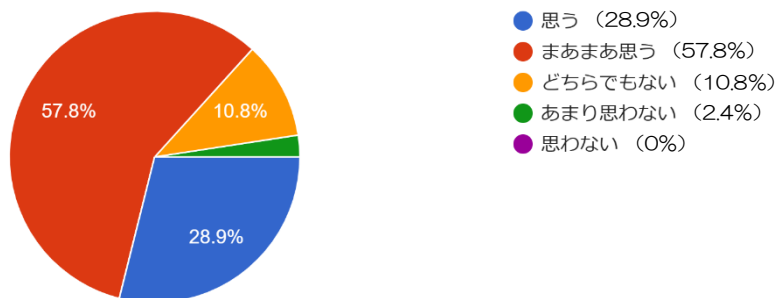
- ✓ うまく伝えることができなかった。初めて発表したけど伝えるのが難しいことがわかりました。
- ✓ 意外とたくさんの人が見に来てくれたので緊張したけど、他の学校の人と対話などで話すと、自分は知らないようなことが聞けたので楽しかったです。
- ✓ 思ったよりたくさんの人に聞いていただけで良かった。他校の方にも発信活動ができ、対話を通してたくさん意見を聞くことができたのでとても有意義な時間になった。
- ✓ 聞いてくれた人からもらった感想や、みんなで話し合った問いの中から新たな視点が生まれたのが面白かった。
- ✓ 自分たちの町への思いをたくさんの人に伝えることができ、とても嬉しかったです。
- ✓ 他校生も他学年もみんなで一緒にふるさとの事を考えてみて、それぞれのふるさととは唯一無二で二つとない特色をもっているんだなと感じました。

【教職員】

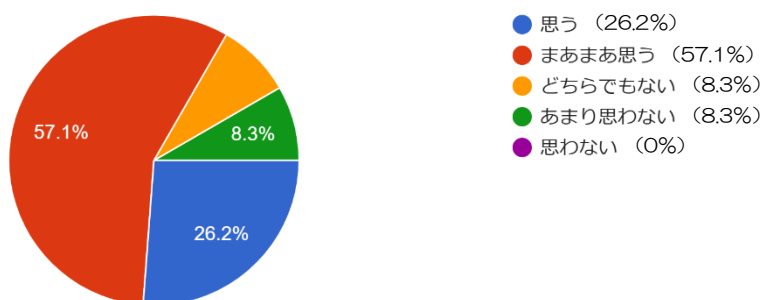
◇ 今年のふるさと創造学サミットはいかがでしたか。



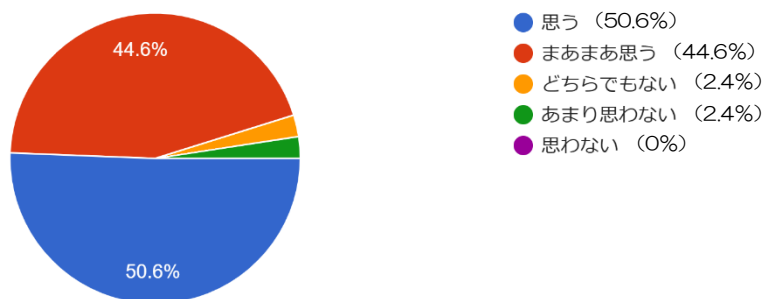
◇ ふるさと創造学サミットに参加することで、自校の子どもたちは他町村の子どもたちと交流できたと思いますか。



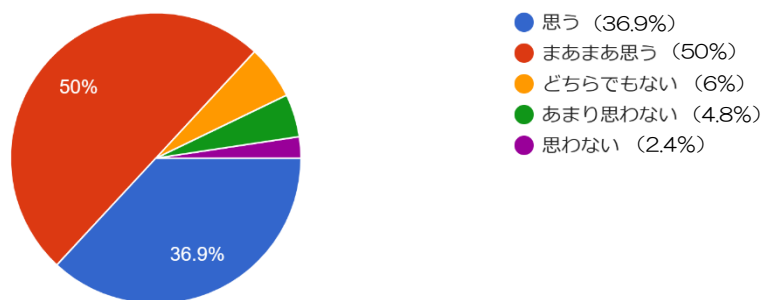
◇ 自校の子どもたちはふるさと創造学に意欲的に取り組んでいると思いますか。



◇ ふるさと創造学に取り組む中で、自校では地域の教育資源を積極的に活用していると思いますか。



◇ 自校では自校ならではの特色あるカリキュラムが編制できていると思いますか。



- ◇ ふたば生徒会連合企画・運営のオープニング/クロージング・セレモニーはいかがでしたか。
 - ✓ じゃんけん列車や円陣などの発想は面白かった。中学生が中心となる企画は続けてほしい！今回のように時間がなくなった時に臨機応変に対応した生徒は素晴らしかった！
 - ✓ 多くの児童生徒が感想を述べていて、びっくりした。あれだけ手が上がるということは、このサミットで子どもたちの心が動いた証拠だと思った。
 - ✓ 最初のセッションに影響を与えることなく適切に時間が管理されていて良かった。内容的にも子どもたちどうしの触れ合いもあり、良かったのではないかな。ただ、生徒会連合の方ではもう少し交流したかったのかもしれないが、時間的にはあれが限界なのかも思った。来年度も今年度と同じ程度で時間確保をする方向で良いと思う。
- ◇ サミットに参加した感想（自校の子どもたちの発表および聞く姿を見て、他校の発表を見て感じたこと等々）
 - ✓ サミットに至るまでの取り組みは時間もかかり、大変であったが、お互いに発表し合うことや対話することに大きな意義を感じた。地域の復興創生をしては行かなければならない地域において、未来の人材を育てるための重要な取り組みであると強く思った。
 - ✓ 交流の時間が例年より長くなったが、交流の時間の進め方や話し合うテーマを工夫することで、サミットの目指す姿に近づきつつあると感じた。発表校の児童だけでなく、参加している児童の発言内容も素晴らしいものが多く、感心した。
 - ✓ 自校の生徒たちは、これまで準備してきた成果を十分に発揮してセッションを運営してくれたと思っている。特に、対話・交流の部分では、学校では見せたことのないような積極的な姿勢を見せてくれた。他校の発表では、それぞれが堂々とした態度で発表できておりそれぞれの学校での指導が十分に生かされていると感じた。ただ、自校の生徒を指導してみて、対話・交流をどう捉えるか、何を目的に対話を行うのか、難しいと思っている。
 - ✓ 本校の児童たちは、努力してきたプロセスをしっかり伝えられ、成果を十分あげることができたと考えています。一方、このサミットの本来の主旨を、改めて考えさせられました。発表内容・方法が形骸化していないか、学校によっては子どもの人数によって負担感はないかなどを評価する必要があると考えます。
- ◇ 今後のサミットへ向けたご意見・ご提案がありましたらお聞かせください。
 - ✓ 今回同様、高校生の発表を聞く機会を設けてほしい。
 - ✓ 昨年度の内容も含めてですが、自分がやってきたことや町や村についての「紹介」とどまっている発表もあったのかなと感じます。サミットの考え方の一つとして、「多様な意見に触れる」「多様な見方・考え方の中で自分の考え方を築く」とあるため、「紹介」だけでなく、「学習して自分はどう感じ

たのか、これからどうしていききたいか」などの「意見」や「考え」を表現できるような発表・対話になればいいと思います。ただ、そこまでやるのは学校現場としては時間的な問題や子どもたちの実態も踏まえると厳しいものがあります。サミットを今後も継続、さらに充実したいのであれば、何か双葉郡全体として削減・簡略化できるものを探していかなければならないと思います。

- ✓ 対話・交流を重視するという方向性は良いと思う。そのやり方は各校独自のものがあっていいと思うし、他の学校のやり方を見て参考にしようという姿勢で良いと考える。ただ、「発表に対する質疑応答や感想発表だけでもよい」としてしまうと、これまでの取り組みが途絶えてしまいそうなので、「対話の時間を必ず確保する」という方向は継続した方がよいと思う。
- ✓ 双葉郡の子供たちであるからこそ、他地域と異なる取り組みであると思う。他校の発表から、自分たちの取り組みをさらに高めるため、また交流の場として有効であると感じる。

(3) 第7回双葉郡小学校絆づくり交流会

□ 趣旨

- ふたばの未来を見据えた、8町村小学生による町村の垣根を越えた仲間づくり
- 双葉郡内小学校の教職員の交流・情報交換

□ 体制：

①絆づくり実行委員会

実行委員長：石井智明 広野小学校長

委員：各町村（小学校）、特別支援学校より1名以上（計9名）

会議日：5月23日、6月25日、7月17日、10月8日（計4回）

②絆づくり中高生実行委員会

委員：ふたば未来学園中学校・高等学校、川内小中学園の中高生（8名）

会議日：6月22日、7月22日（計2回）

（ふたば未来学園高校および葛尾中学校の生徒5名が当日サポートとして参加）



□ 実施概要

日時：2024年7月29日（月）9:30（開会式10:00）～13:15

会場：大熊町立学び舎ゆめの森

対象：双葉郡8町村立小学校児童（全学年対象）

内容：絆づくり交流活動

プログラム：

① アイスブレイク

中高生スタッフによるレクリエーション（じゃんけん大会、○×クイズ）

② 開会式

（1）開会あいさつ／開会宣言

（2）実行委員、サポートスタッフ紹介

（3）集合写真撮影

（5）諸連絡



③ 交流活動

低学年：猛獣狩りへ行こうよ、じゃんけん列車、なかよくはこんでね

中学年：バースデーチェーン、自己紹介、紙コップタワー

高学年：謎解きウォークラリー、新聞紙タワー選手権



④ お昼・休憩

⑤ 閉会式

（1）閉会あいさつ

（2）感想共有

（3）講評：実行副委員長 新妻 裕人（富岡小学校（令和7年度当番校））



□ 参加者数 (計 334 名)

児童 224 名、教職員 94 名、中高生実行委員 8 名、中高生当日スタッフ 5 名、関係者等 16 名

□ 中高生実行委員缶バッジデザイン (中学生によるデザイン)



□ 活動の振り返り・次年度へ向けて

実行委員からの振り返り：

- ✓ アイスブレイクも含め、中高生の活躍がすばらしかった
- ✓ 月曜開催で前日準備ができなかった。可能なら曜日を月曜日以外とし、参加できる先生方で前日準備を行いたい
- ✓ 積極的に活動できる子と恥ずかしがってグループに入れないう子が見られたが、声掛けをすると交流する姿があり、会としての意義を感じた
- ✓ 先生方も見守りのしやすい環境であり、子どもたちも気分転換を行いながら活動ができた。また中高生も子どもたちを上手に支援できていた
- ✓ 対話をしながらグループで協力し行う、高学年らしい内容だった

次年度へ向けて

- ✓ 会の意義を先生方だけでなく子どもたちにも伝え、理解した上で参加できればより主体的な交流に繋がるのではないかと
- ✓ 当日は、実行委員以外の先生方の協力が必要。サポートをお願いしたい内容を事前にしっかり伝えておけると先生方も協力しやすい
- ✓ 活動の一部に外部講師を招聘して教科的な内容を取り入れてはどうか
- ✓ アリーナを半分に分けて使用する場合、低学年はトイレ側手前のスペースとする、マイクのスピーカーの向きは対面ではなく、反対側に音が流せるようとする

など、工夫が必要

- ✓ 時間で区切るなど、活動ごとに会場を別にするのが理想
- ✓ 感想用紙等で子どもたちの感想を集めることとする
- ✓ 中高生ボランティアへのお礼の手紙は当番校の担当とする
- ✓ 各校にて6年生に、中学生になったらボランティアとして参加が可能なことを改めて伝えておく

(4) 第9回双葉郡中高生交流会 FUTABA 1 DAY SUMMER SCHOOL

□ 趣旨

(双葉郡中高連携の目的) 交流を通じ生徒たちが主体性・協働性・創造性を発揮するとともに、町村や世代の垣根をこえて双葉郡のつながりを感じる

実施目標：

- ◇ お互い共感したり認め合ったりしてつながりを感じる
- ◇ 普段の学校生活の中ではできない学びを体験し主体的に参加し、わくわくする

□ 体制 (中高生交流会実行委員会)

実行委員長：対馬俊晴 ふたば未来学園副校長

委員：町村 (中学校)・高校・特別支援学校より1名以上 (計11名)

会議日：6月4日、7月5日、7月25日、9月17日 (計4回)



□ 実施概要

日時：2024年8月1日 (木) 10:30～15:30

会場：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

対象：双葉郡内中学校・高校の生徒、双葉郡外の中学校・高校の生徒

内容：選択制参加型のワークショップ形含む活動。計6クラス

プログラム：

- ① 開校式 (ふたば生徒会連合企画・運営)

- ◇ 開会のことば
- ◇ 実行委員長あいさつ
- ◇ 秋元康さんによる講師紹介、講師挨拶
- ◇ ふたば生徒会連合より
- ◇ 閉会のことば



② クラス別ワークショップ

- A組 講師：大塚 敏之さん（株式会社 GALLUSYS 代表取締役社長）
「未来のウェブクリエイター：生成AIで夢のサイトを創ろう！」
生成AIを活用して、自分たちの夢やアイデアを形にするWebサイトを作成します。未来の可能性を広げ、クリエイティブな発想を実現する方法を学びます。
- B組 講師：橘 ケンチさん（EXILE/EXILE THE SECOND パフォーマー）
中務 裕太さん（GENERATIONS from EXILE TRIBE パフォーマー）
「あの名曲をみんなで踊ろう！」
今年も暑い夏休み！LDHのケンチさん、裕太さんと、あの名曲で熱いダンスにチャレンジ！リズムに合わせて盛り上がりましょう！！
- C組 講師：平子 良太さん（I' m donut ? オーナーシェフ）
「食の力を感じよう」
生食感って？ どうやって生み出したの？ 商品開発の秘訣は？ 毎日1万个以上売れる！『I' m donut ?』平子シェフと、生ドーナツを食べながら様々な「？」を紐解こう！
- D組 講師：古舘 伊知郎さん（フリーアナウンサー）
「しゃべり下手大集合！」
オチなんかなくなったっていい！しゃべり下手からアナウンサーになった古舘さんと、感じたままに思いを巡らし、取り留めもなく語り合う「しゃべり場」！タイパ・コスパの逆を行け！
- E組 講師：松田 誠さん（株式会社ネルケプランニング ファウンダー）
植木 豪さん（演出家）
「2.5次元ミュージカルを“体験”しよう！」
マンガやアニメが原作の2.5次元舞台・ミュージカル作品を“観る”ではなく“体験”しよう！プロデューサー松田誠さんと演出家植木豪さんが楽しく教えてくれるよ！

➤ F組 講師：渡辺 淳之介さん（音楽プロデューサー・作詞家）

「色んな夢の叶え方を知ろう」

将来の夢はロックバンドで東京ドーム！だったけど叶わなかったので音楽プロデューサーになった渡辺さんと、今が楽しい話と業界の裏話なんかをしつつ、BiSHの曲でオリジナルの作詞をしてみない？

※各クラスごとに終了



□ 参加者数（計 477 名）

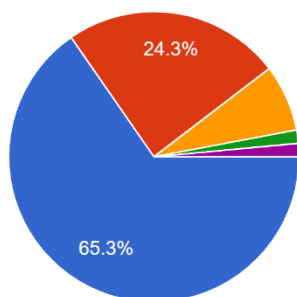
生徒 361 名、教職員 116 名、関係者等 18 名

□ 活動の振り返り（次年度に向けた成果・課題を含む）

振り返りアンケートより：

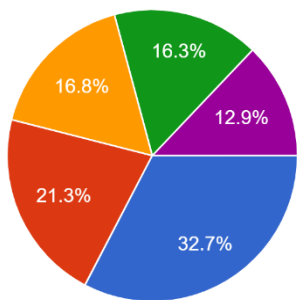
【生徒】

◇ 参加したクラスは楽しかったですか？（充実していましたか？）



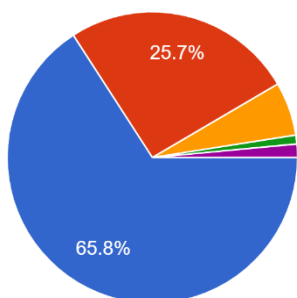
- 楽しかった（充実していた）（65.3%）
- まあまあ楽しかった（まあまあ充実していた）（24.3%）
- どちらともいえない（7.4%）
- あまり楽しなかった（あまり充実していなかった）（1.5%）
- 楽しなかった（充実していなかった）（1.5%）

◇ 他校の生徒と交流することが出来たと思いますか？



- 思う (32.7%)
- まあまあ思う (21.3%)
- どちらともいえない (16.8%)
- あまり思わない (16.3%)
- 思わない (12.9%)

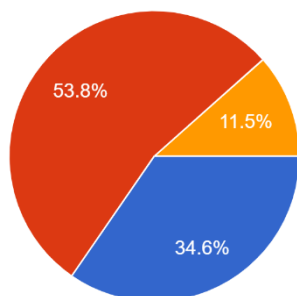
◇ 普段の学校生活とは違う学びが体験できたと思いますか？



- 思う (65.8%)
- まあまあ思う (25.7%)
- どちらともいえない (5.9%)
- あまり思わない (1%)
- 思わない (1.5%)

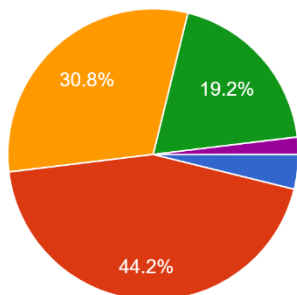
【教職員】

◇ 今年度の中高生交流会はいかがでしたか？



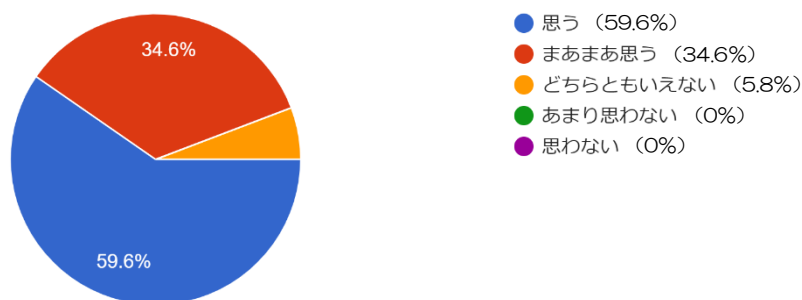
- 有意義だった (34.6%)
- まあ有意義だった (53.8%)
- どちらともいえない (11.5%)
- あまり有意義ではなかった (0%)
- 有意義ではなかった (0%)

◇ 自校の生徒は他町村の生徒と交流することができていたと思いますか？



- 思う (3.8%)
- まあまあ思う (44.2%)
- どちらともいえない (30.8%)
- あまり思わない (19.2%)
- 思わない (1.9%)

◇ 自校の生徒は普段の学校生活とは違う学びが体験できていたと思いますか？



振り返り実行委員会より：

- ✓ 全体で行うにはアリーナしかない。これからますます生徒の数が増えていく。参加人数についても検討する時期ではないか。
- ✓ 双葉郡全体の行事。ふたば未来だけでなく、体育館は大熊のゆめの森、その他は富岡の学びの森など、参加人数に応じて振り分けも検討してはどうか。
- ✓ 実際に生徒の振り返りでは、「去年と比べて過ごしやすかった」という声もあり、単に「暑かった」というのは14件程度しかない。その他にゲストの話を聞いた、参加しないクラスの講師が何をしているか知れたなどの声も。去年から改善できた部分は間違いなくある。
- ✓ 全校強制参加ではなく、希望者制にするなり、まずは人数の規模を絞ってはどうか。3年間に1回などとすれば質的にも満足度も上がるのではないか。
- ✓ 1日で目的が交流と学校外での学びの2つあるのは難しい。生徒は交流を求めており、他校との交流がプラスになるのは間違いないが、他の場面でも交流の機会は確保できる。サマースクールの目的は学校外での学びに絞った方が、苦しい所がなく済むのではないか。
- ✓ 午前中は生徒間の交流、午後からは講師の先生を呼んで一つの事をみんなでやる形がよいのではないか。生徒、教員の負担軽減にも繋がる。

(5) カリキュラム検討・教員研修

1. ふるさと創造学教員研修会

□ 実施概要

日時：2024年5月31日（金）13:30～16:30

会場：大熊町立学び舎ゆめの森

目的：8町村が連携して進める「ふるさと創造学」の更なる充実、発展

内容：

- ① ふるさと創造学の創設と総合的な学習の時間の意義について
 - ◇ 大熊町立学び舎ゆめの森 南郷市兵校長
- ② 代表校3校による各校のふるさと創造学取組共有（各15分）
 - ◇ 浪江町立なみえ創成小学校 横山浩志校長・和泉優衣先生

- ◇ 大熊町立学び舎ゆめの森 柴田理臣先生
- ◇ 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 對馬俊晴副校長

③ 講演

「主体的・対話的で深い学びと探究」

講師：田村学氏（文部科学省初等中等教育局主任視学官）



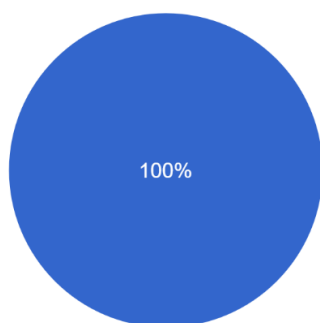
□ 参加者数 計 92 名 ※関係者含む

参加者内訳：双葉郡内 64 名（教職員 57 名、教育委員会 7 名）

双葉郡外 28 名（教職員 8 名、教育委員会等 12 名、その他関係者 8 名）

□ 振り返りアンケートより（抜粋）

- ◇ 今後の指導や取り組みに活かせる内容でしたか。



- 生かせる内容だった（100%）
- 生かせる内容ではなかった（0%）
- どちらともいえない（0%）

- ◇ 代表校による取組紹介はいかがでしたか。

- ✓ 改めてふたば未来学園の実践は双葉郡内の良いロールモデルとなっている。というのも、しっかりとカリキュラムに組み込まれているからだ。他の 2 校の実践も今までの積み上げた実践の上に立っていて、その経験が生かされているものだった
- ✓ なみえ創成小学校、ふたば未来学園ともに、地域に関連したたくさんの体験活動を行っており、たくさん見習いたい部分があった。両学校からアイデアを借りて、本校の体験活動に生かしていきたい。また、両校とも年間の見通しが立っており、計画的に探究活動を進めている部分は見習いたいと感じた。
- ✓ 「探究」の捉え方が今まで曖昧でしたが、どの学校もその定義がしっかりされていて、また、学校全体で計画的に取り組まれており、素晴らしいと思いました。特に子どもたちの「好き」「やりたい」気持ちを大切にされているのが伝わりました。

した。

- ◇ 田村学氏によるご講演はいかがでしたか。
 - ✓ 「深い」学びについて、図や事例を提示しながら説明してくださり、今まで曖昧だった「深い学び」のイメージが明確になりました。総合的な学習だけでなく、他の教科にもつながっていると感じました。
 - ✓ 深い学びのために、知識の精緻化や体系化など、様々な方法があることをご講義いただき、大変勉強になった。また、探究活動における探究のプロセスについては、自分の教科(理科)とも通じる部分が多く、課題の設定と結果の整理分析のハードルが高い、というお話を聞いて大変納得した。教科学習と探究活動を行き来しながら、学習活動を展開していきたいと思った。
 - ✓ 主体的・対話的で深い学びについて、深い学びにするためには、知識や技能をつなぐ事が大切であり、そのためには活用・発揮が重要になる事、さらに、生徒の探究は教師側が教師力、指導力を磨くチャンスである事など、改めて気づく事、学ぶ事がたくさんありました。
 - ✓ 学校の教育目標と総合的な学習の時間とのつながり、また同じ目標に向かって地域で取り組むというふるさと創造学の特色等を再確認できた。
 - ✓ 探究学習の重要性を改めて感じた。知識の構造か探究のプロセスの図がわかりやすかった。また課題の設定には、現状を知り問題を把握するとともに、教師の適切な関わりが必要であることを学んだ。今後は思考ツールなども工夫して使っていきたい。
- ◇ その他
 - ✓ 双葉郡教育復興ビジョンとふるさと創造学サミット立ち上げ当初から現在までを振り返ってみると、着実に前進してきていることを感じ取ることができた。節目の時を超えて、今後の進むべき方向についても再考していきたいと感じた。
 - ✓ 双葉郡の学校再開、カリキュラムの充実においてふるさと創造学への取り組みが果たした役割はとても大きいと感じている。特に、ふるさと創造学を実践している教員自身が自分の所属校のある地域のよさを知ろうとし、そこで育つ子どもたちの未来を考えながらカリキュラムを考えるようになる。双葉郡で研修を積んだ教員が、他地区でどのようにその成果を生かしているのかを知りたい。双葉郡での経験を、域内外で生かす教員が増えているのであれば、ふるさと創造学や双葉郡教育復興ビジョンの取り組みに関する成果と言えるのではないかと。
 - ✓ ふるさと創造学を経験した子どもたちが今現在どのようになっているのか、ふるさと創造学での学びを大人になってどう活かしているのか、かつてふるさと創造学を経験した子どもの講演会があると、教員の意識向上にも、ふるさと創造学の成果や課題の発見にもつながるのではないかと思います。

2. 第12回教職員による双葉郡子供未来会議

□ 実施概要

日時：2025年2月4日(火) 13:00～16:00

場所：川内村コミュニティセンター

目的：双葉郡独自の魅力的な教育の更なる充実、発展および教職員の町村や校種を越えた交流・情報共有

講師：堀本 晋一郎 先生（川内村教育委員会 教育長）

千葉 偉才也 先生（国立大学法人福島大学 教育推進機構
高等教育企画室 特任准教授）

内容：

① 堀本教育長による講話

「震災の記憶と双葉郡教育復興ビジョン」

東日本大震災当時の学校の様子や避難先での状況、教職員の対応等、実験を体験を元にした話をいただいた後、なぜ双葉郡教育復興ビジョンが策定されたのか、なぜ双葉郡8町村が連携した取組が必要なのかをお話いただいた。

② 千葉先生による講話

「探究学習としてのふるさと創造学 ―生活者視点で課題設定を考える―」

探究学習の課題を設定する際は「生活者」としての視点で考えることで子どもたちがより課題を自分事として考えられるようになること、現場の体験を通じて学びを深めることでより面白く感じられるようになることなどを含め、探究的な学びとしてのふるさと創造学の捉え方についてお話いただいた。

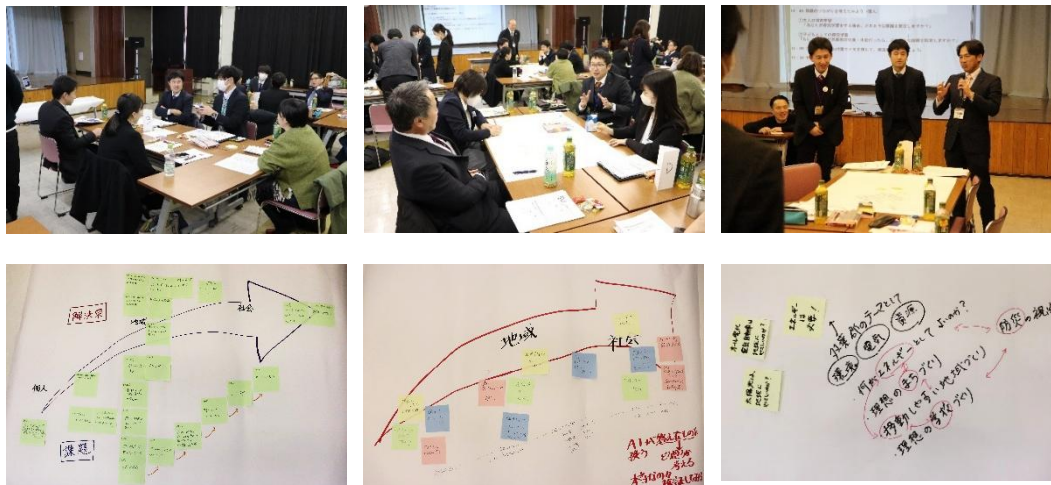


③ 備蓄倉庫視察



④ ワークショップ「等身大の課題設定を体験しよう！」

5つのグループごとに課題を設定し、その後全体共有を行った。



□ 参加者数 計 27 名 ※関係者含む

□ 振り返りアンケートより

◇ 参加した感想等

- ✓ 3. 11 の時の現場の声を聞けたのがよかった。これからも予想できない世の中だからこそ、先人の体験や工夫を今聞いて、自分自身が何をすべきかを考えることができました。
また、WS を行う事で自分たちが課題としていることが、他地域では、社会ではという観点を考えていく上でさらに視野を広げられるので、子ども達の探究でも生かしたいと思いました！
- ✓ 震災当時の記憶を積極的に子供達に伝えていく必要性を改めて感じた。探究学習における課題設定の難しさについて、有効なヒントを得られたと感じる。
- ✓ 震災当時の様子について、新たな情報をいただくとともに、震災からの復興は、また新たなフェーズに入っていることが実感できました。また、ワークショップでは、探究のサイクルを回すプロセスを実感できる貴重な機会となりました。
- ✓ 課題設定と聞くとハードルが高く感じられたが、「直接接触したものや不満でよい。」という説明を受けて、安心して考えを出し合うことができた。楽しく話し合いができたため、子どもたちの指導でも実践していきたい。

3. 「ふるさと創造学 令和6年度・実践事例集」制作（予定）

目的：双葉郡8町村が連携して行う「ふるさと創造学」の各校の取組の共有およびアーカイブ

内容：各校のふるさと創造学取組内容（テーマ、活動内容・手法、ねらい等を含む）

発行部数：900部（予定）

配布対象：郡内教職員、関係者、他町村教育委員会等

発行日：2025年3月（予定）

(6) ICT活用推進・広報誌編集制作

□ 目的

ICT活用：

離れている双葉郡の学校同士をつなげ、子供たちへの教育効果を高める

広報誌制作：

広報誌制作双葉郡内各校の取組や子供たちの姿・思いを、教員や子供の視点を大切に地域内外へ取組を発信することで、ふたばの絆をつくるとともに、表現・発信等のアクティブ・ラーニングにつなげる

□ 体制（ICT活用・広報委員会）

委員長：南郷市兵 学び舎ゆめの森校長

委員：各小・中・高校1名（計17名）

□ 取組概要

➢ ICT活用・広報委員会（2025年2月10日オンライン開催）

- 双葉郡内各校のICT活用状況等情報交換
- 次年度へ向けた意見交換 等

□ 広報誌「ふたばの教育 Vol.15」概要

号	2025年春号（Vol.15）
発行	2025年2月発行（予定）
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ふたばのせんばいインタビュー ・ふたば生徒会連合による学校自慢 ・各校の学校取組紹介 ・絆づくり・中高生交流会、ふるさと創造学サミットレポート 等
読者	双葉郡8町村の地域住民（各町村広報誌に同封し全戸へ発送）、各校保護者・双葉郡内教育関係者、一般等
発行部数	38,000部



(7) ふたば生徒会連合

□ 目的

交流を通じ生徒たちが主体性・協働性・創造性を発揮するとともに、町村や世代の垣根をこえて双葉郡のつながりを感じられるようにする

□ 体制（ふたば生徒会連合担当委員会）

委員長：横田和典 葛尾中学校長

委員：各中・高校1名（計10名）

□ 取組概要

➤ 担当委員会（教職員）

5月21日、7月16日、11月19日、1月28日（年4回）



➤ 生徒活動

● ふたばミーティング（ビデオ会議）

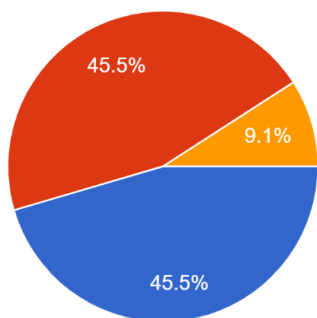
6月24日、7月18日、7月24日（対面会議）、9月24日、10月29日、11月14日、12月16日、1月23日（計8回）



□ 前期活動振り返りアンケートより

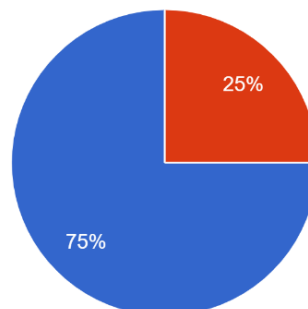
☆ ふたば生徒会連合の活動を通して、他校の生徒と交流することができていると思いますか？

【前期】



- 思う (45.5%)
- まあまあ思う (45.5%)
- どちらともいえない (9.1%)
- あまり思わない (0%)
- 思わない (0%)

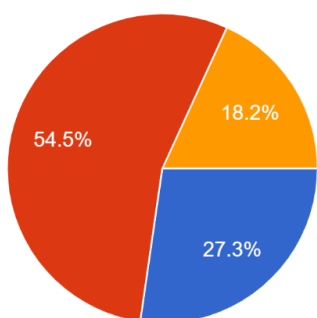
【後期】



- 思う (75%)
- まあまあ思う (25%)
- どちらともいえない (0%)
- あまり思わない (0%)
- 思わない (0%)

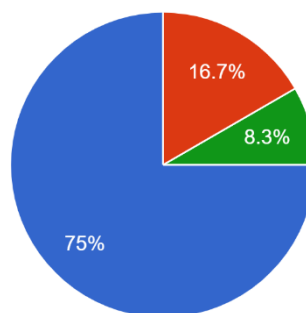
☆ ふたば生徒会連合の活動を通して、「双葉郡」としての横のつながりが強まっていると思いますか？

【前期】



- 思う (27.3%)
- まあまあ思う (54.5%)
- どちらともいえない (18.2%)
- あまり思わない (0%)
- 思わない (0%)

【後期】



- 思う (75%)
- まあまあ思う (16.7%)
- どちらともいえない (0%)
- あまり思わない (8.3%)
- 思わない (0%)

(8) その他

□ 令和6年度栃木県市町村教育委員会連合会研修会 参加

日時：2024年11月20日(水) 15:10～16:30

会場：栃木県庁 研修館4階「講堂」

対象：○市町教育委員会委員、市町教育長、教育委員会事務局職員

○県教育委員、県教育長、県教育委員会事務局

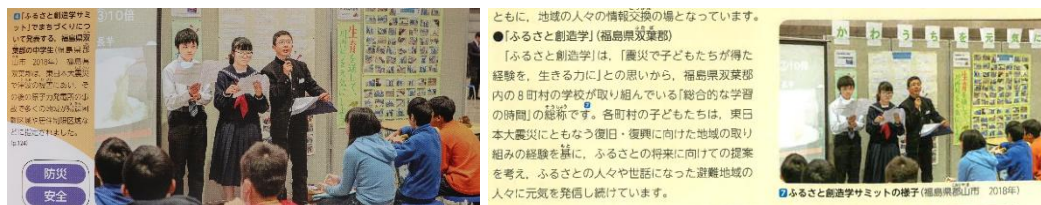
各教育事務所長および事務局職員

演題：「東日本大震災及び原発事故からの教育復興」

協議会座長の中田スウラ先生および双葉町の館下教育長が講師として参加。東日本大震災及び原発事故等からの教育復興の現状および、双葉郡教育復興ビジョンの取り組みに関して講話を行った。

□ 東京書籍「新しい公民」・「新しい社会」の教科書掲載

「ふるさと創造学」については、東京書籍の「新しい公民」及び「新しい歴史」の教科書（中学生対象）に掲載されており、令和7年度発行版についても「新しい歴史」には継続して掲載されることになっている。



以上